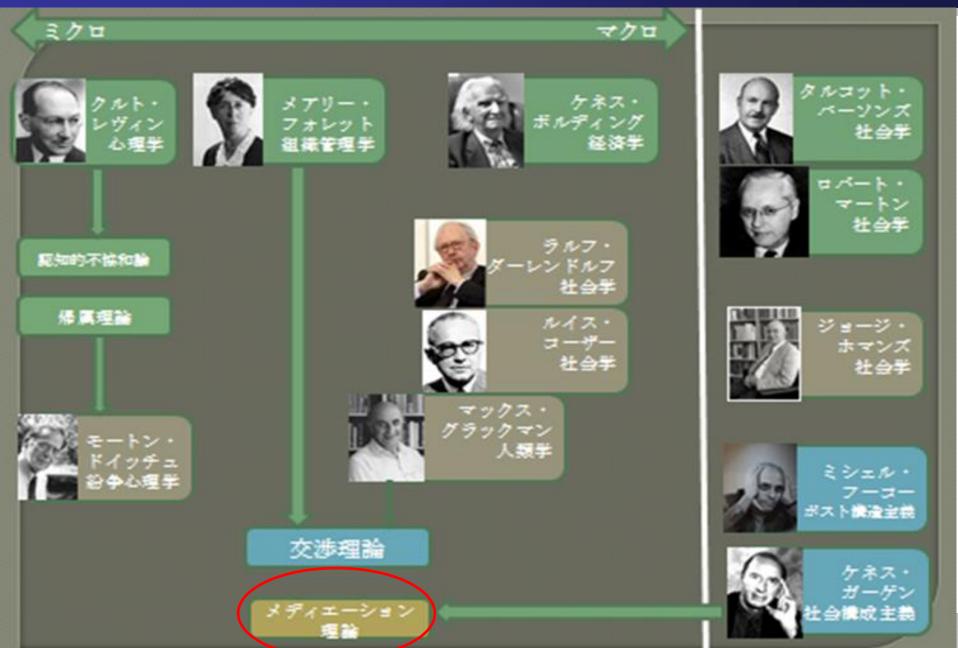
Yamagata University

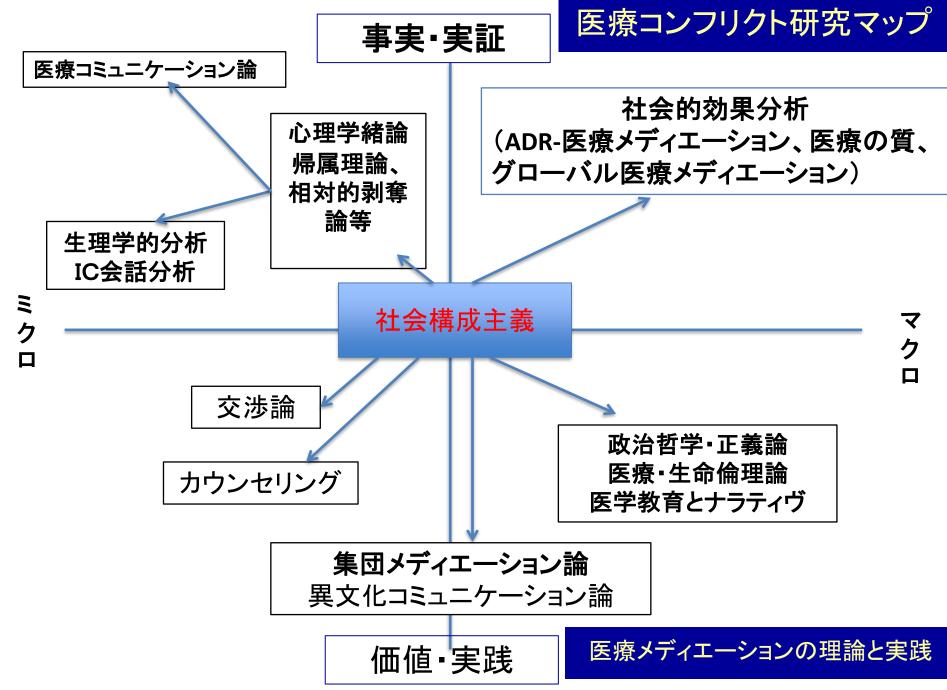
山形県医療ADR学術研究会

山形県医療ADR学術研究会の あゆみ

山形大学医学部総合医学教育センター 中西淑美

1. コンフリクト研究の学術的系譜 (出典:和田仁孝著,「コンフリクト・マネジメント研究と医療」,医療コンフリクト・マネジメント,1:1-12,2012 から図1引用)





学術的背景 (出典:和田仁孝著,「コンフリクト・マネジメント研究と医療」,医療コンフリクト・マネジメント,1:1-12,2012 から図2引用一部演者改編)

我々が目指すもの

- 患者へのケア
- ・倫理面への配慮
- Blame Free (WHOガイドライン)
- Peer Review
- 原因分析
- 医学的検証
- 患者側への情報開示と真摯な説明
- ・再発防止
- 安心 安全な高度医療

過去

事務局報告:山形県医療ADR学術研究会のあゆみ

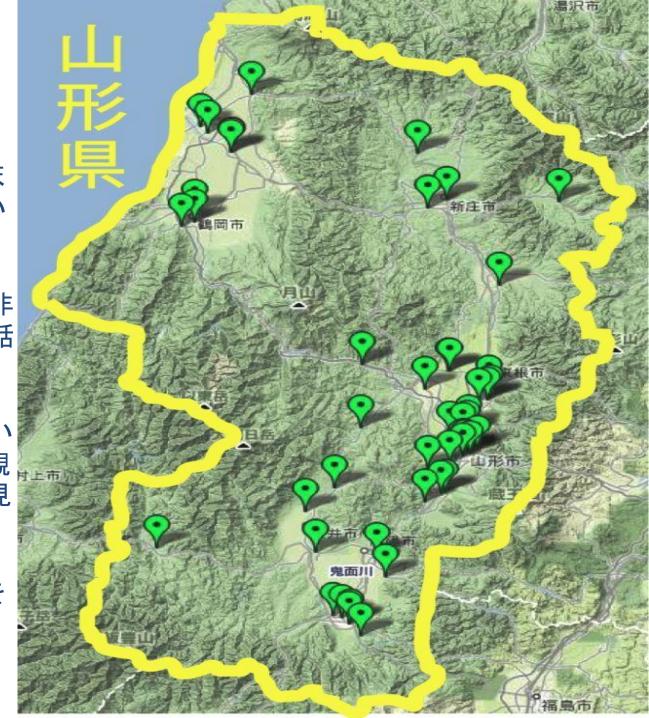
全国初の医療機関連携による対話型医療ADRへの取り組み

- ・ 全国に先駆けて、地域連携医療機関協議会の多くの 方の賛同を得て、山形県医療ADR学術研究会設立。
- 第一回は、平成21年7月23日、嘉山孝正前医学部長、 山形県医師会長有海躬行先生、山形県健康福祉部 長結城博史先生、早稲田大学法学学術院教授和田 仁孝先生の三名を顧問に迎え協議会会員のご協力 の下、発足。
- 本研究会では、年に一~二回の講演会(学外研究会と毎月の学内研究会も提供している)。



研究会の設 立目的

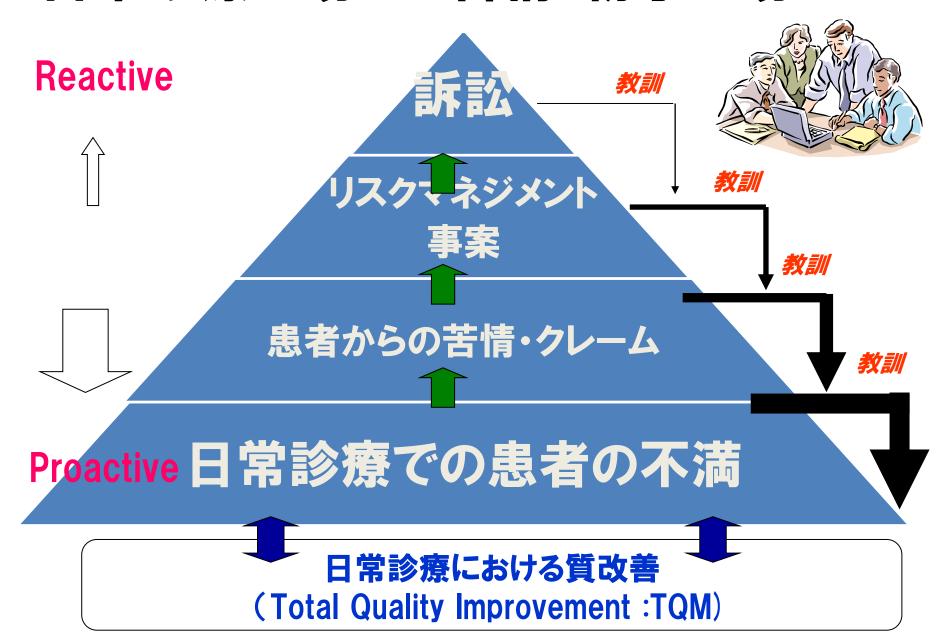
- 1. 患者・家族・市民と臨床 現場の医療者とのよりよい 関係性を構築する
- 2. より良い医療へ向けて非 医療者と医療者の協働対話 による試みを発信する
- 3. 医療事故・紛争等において、臨床現場の実際的な観点から学際的研究まで意見 交換の場をもつ
- 4. 研究会での個別病院を はじめ行政・医師会と 連携をとり、地域医療に 貢献する



山形県における医療紛争解決 の新展開へ向けて

- 基本コンセプト
- ・ 職員を守り、患者や地域住民を大切に
 - 1)日常臨床の場での展開
 - 2)紛争の場での展開
 - 3)紛争解決から医療の質・安全改善へ
- 実践レベル
 - 1)山形大学での展開
 - 2)山形県内での展開
 - 3)東北地方での展開
 - 4)全国へ向けて

日常診療の場から苦情・紛争の場まで



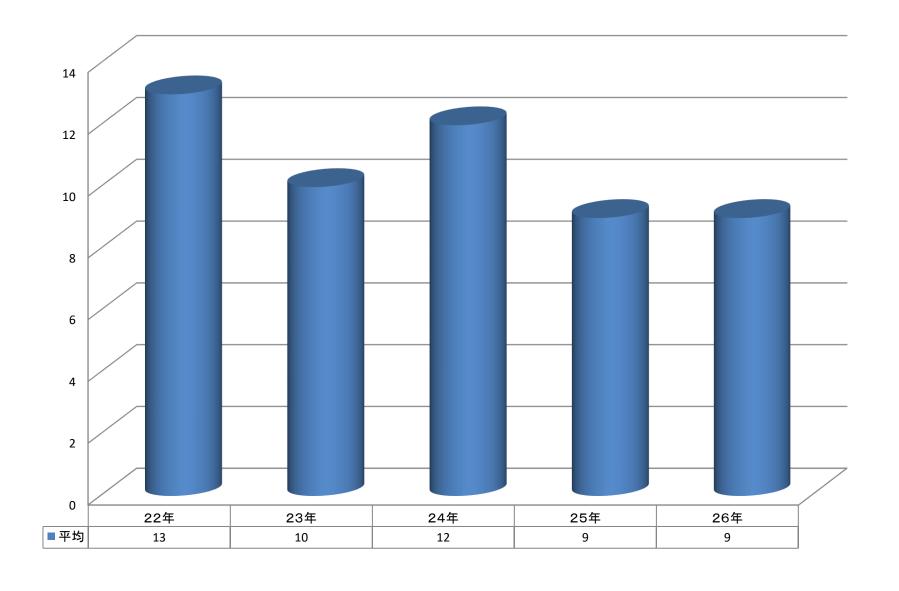
患者サポート体制充実加算A234-3

- ・ 患者サポート体制充実加算(入院初日) 70点
- ・注 患者に対する支援体制につき別に厚生労働 大臣が定める施設基準に適合しているものとし て地方厚生局長等に届け出た保険医療機関に 入院している患者(第1節の入院基本料(特別入 院基本料等を除く。)、第3節の特定入院料又は 第4節の短期滞在手術基本料のうち、患者サポ 一ト体制充実加算を算定できるものを現に算定 している患者に限る。)について、入院初日に限 り所定点数に加算する。

現在

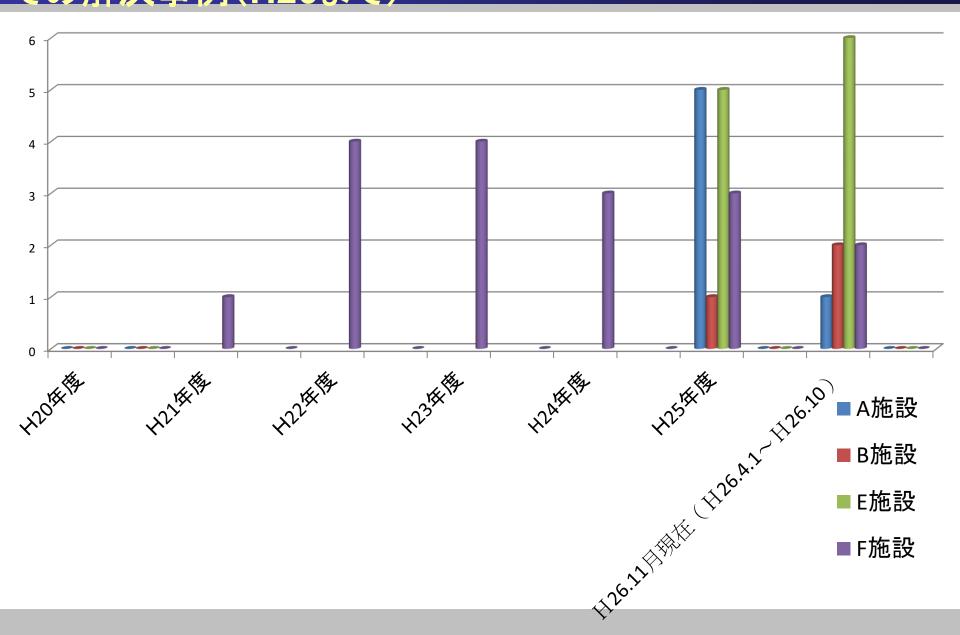
事務局報告: 山形県医療ADR学術研究会のあゆみ

医療ADR定例勉強会(毎月1回~2回)

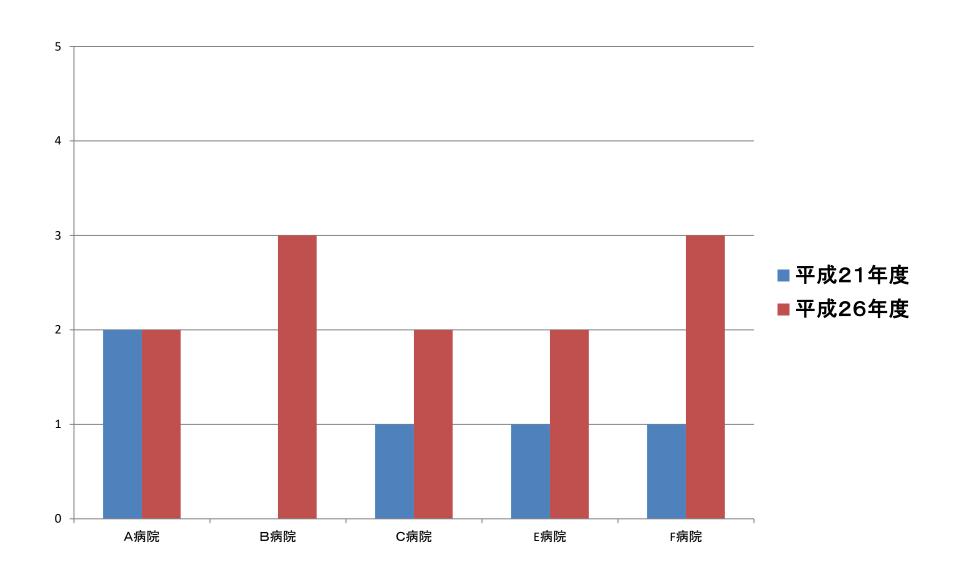


続き

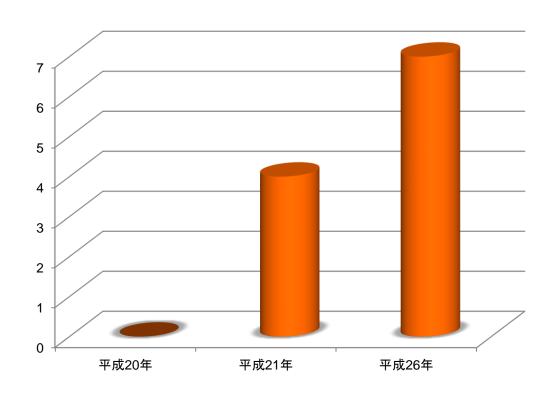
医療事故ではない事例で、医療メディエーションによる対話 での解決事例(H26まで)



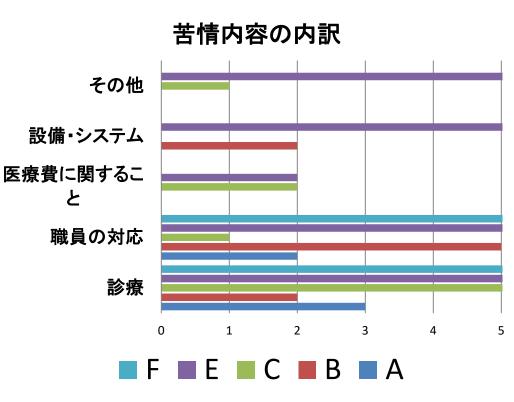
認定医療メディエーターの総数の変化



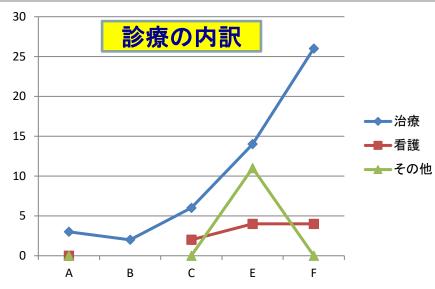
認定医療メディエーター人数

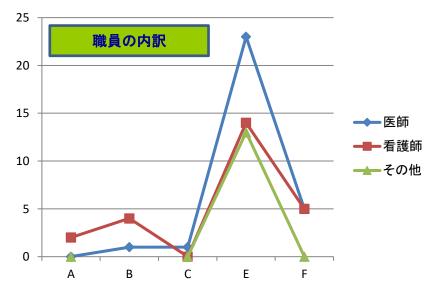


認定医療メディエーターの活動状況 (H25年度苦情対応の内訳)

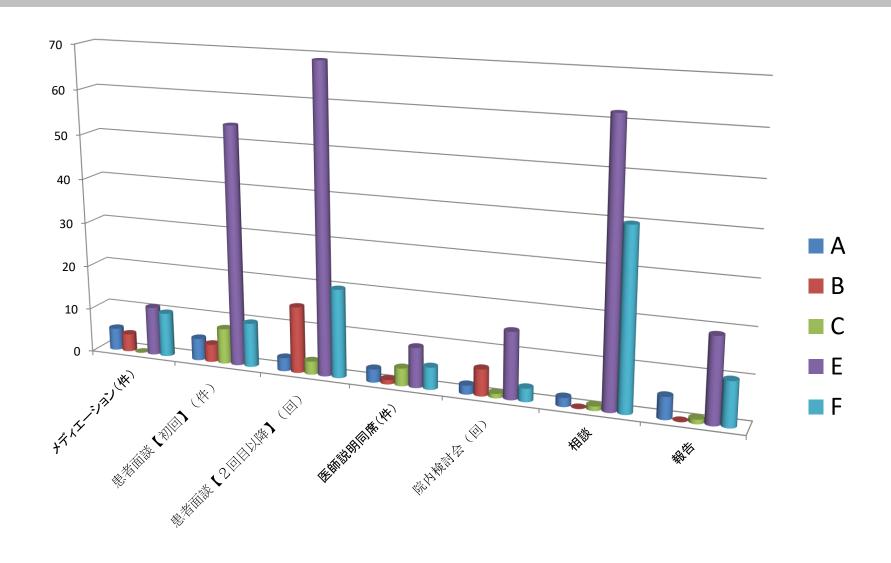


苦情内容の内訳	Α	В	С	Е	F
診療	3	2	6	29	30
職員の対応	2	5	1	50	10
医療費に関すること	0		2	2	0
設備・システム	0	2	0	13	0
その他	0		1	13	0

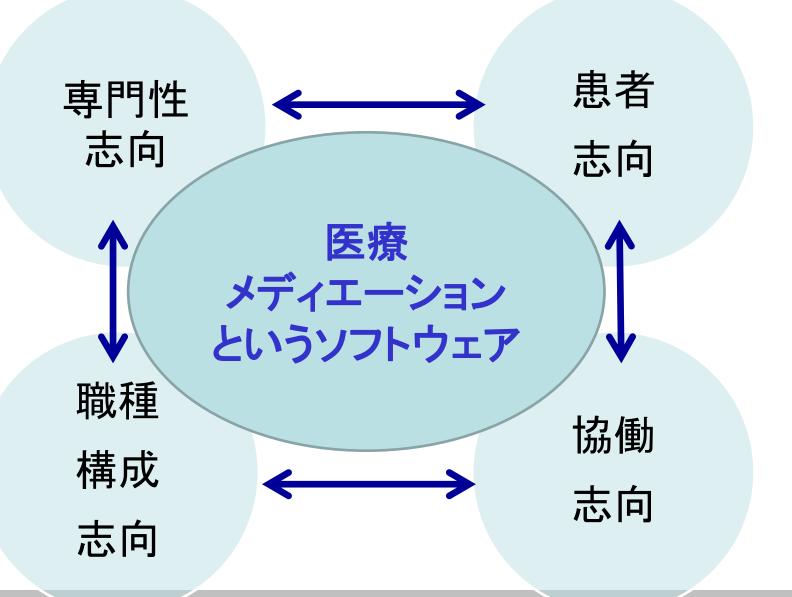




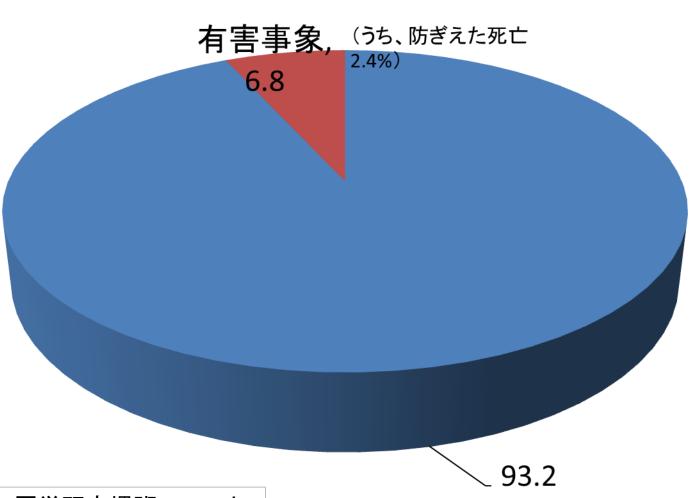
認定メディエーターの活動状況(H25年度)



これからのチーム医療 cf:p63 細田実和子著より引用改編



事故の発生(有害事象)



2005厚労研究堺班 4389人

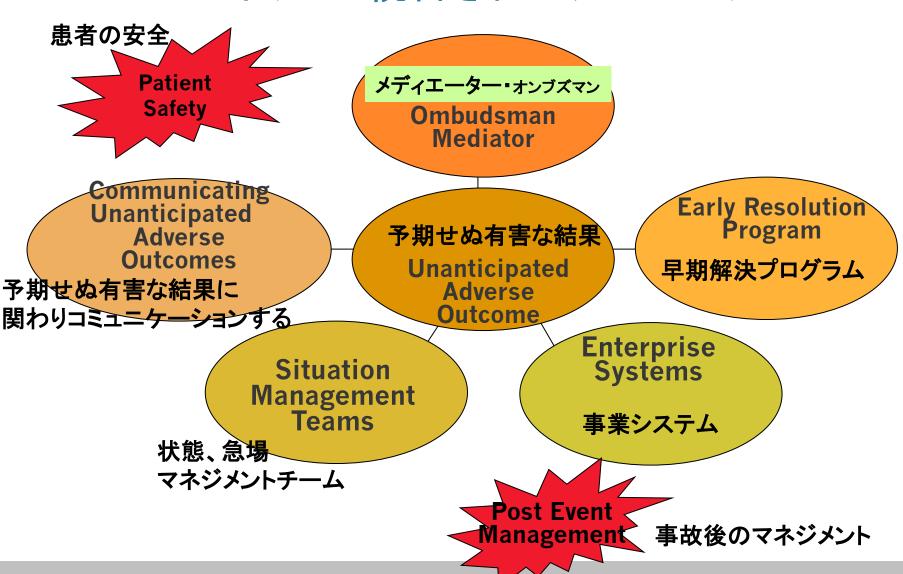
事例の検証と見解

事実経過にそって項目ごとに調査

- 医療事故検討会議にて事実経過内容の確認・ 調査内容から法的・倫理的に検証を行う
- ・特に、事実経過の中で患者や家族がブラックボックス部分は、対話の場で**両当事者情報を俯瞰する医療メティエーション概念**を活用
- ・対話の場で出てきた新たな**主観的事実は、客 観的調査**をして分析にあたる
- 対話に必要な情報共有として詳細な事実確認検証・対策・見解の対応をする

Kaiser: An Integrated Approach

カイザー: 統合されたアプローチ



Related Developments

Kaiser Permanente

State wide program launched in Oregon in July 2014 to provide Early Discussion and Resolution for Serious Adverse Events (Senate Bill 483)
Run by the Oregon Patient Safety Commission



Universities of Michigan, Illinois, Stanford Insurer based programs: Copic, Coverys, WVMIC

Offers both early discussion by provider and mediation if not resolved

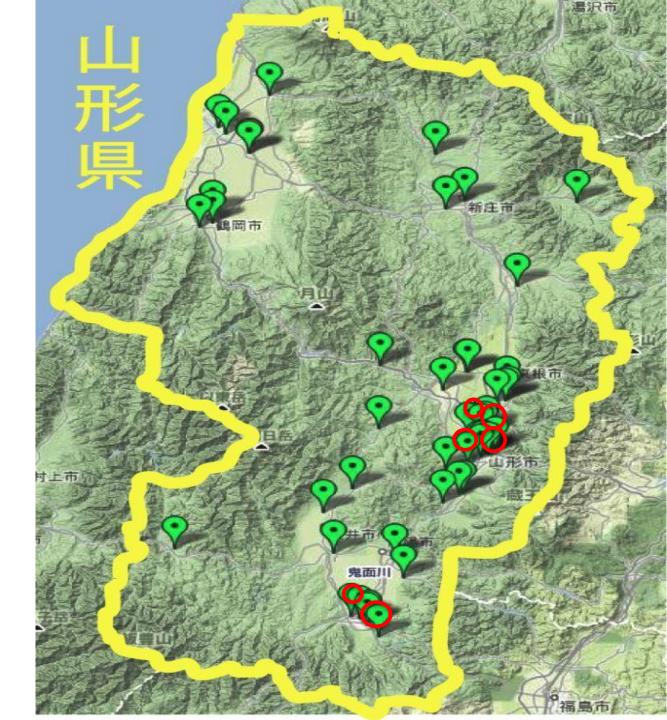
Growing adoption of Communication and Resolution Programs by U.S. Academic Medical Centers

未来

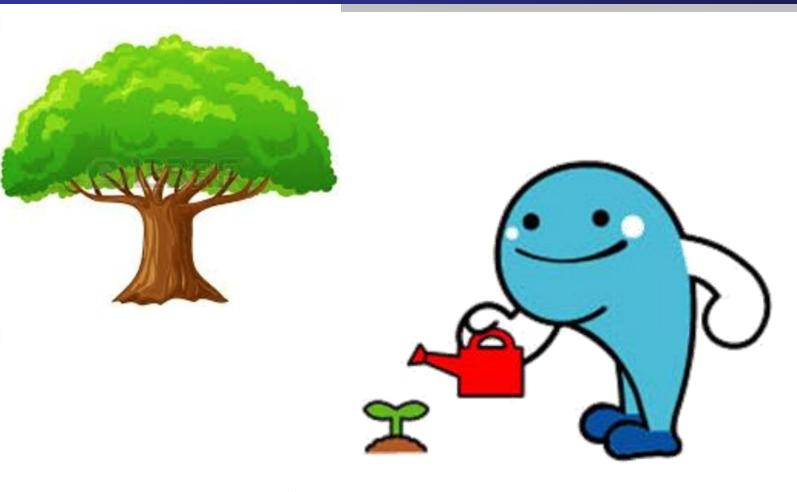
事務局報告:山形県医療ADR学術研究会のあゆみ

対 話 す Щ 形 る 大学か 医 療 ら の 発 地 信 域 連





今後ともご高配のほど、宜しくお願い申し上げます。



メディエーションマインド~

